

令和7年7月16日

熊取町教育委員会 様

教育委員会評価委員会委員 大 野 廣 介  
教育委員会評価委員会委員 岸 本 敬 仁

熊取町教育委員会活動の点検及び評価（令和6年度事業対象）  
に対する意見書

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、熊取町教育委員会が、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うにあたり、次のとおり意見を述べる。

意 見

熊取町教育委員会活動の点検・評価報告書の作成に際し、教育委員会事務局職員より聞き取りを行った。令和6年度においては、既存事業の実施や拡充などを行いながら、新規事務事業にも鋭意取り組んでいることがうかがえる。

今後も、下記の点に留意し、創意工夫のもとに事務事業に取り組まれない。

記

- 1 教育支援センターについては、不登校の児童生徒の居場所となり、不登校支援の要で重要性が増している。学校復帰を最終目標としているが、不登校から繋がりをもてる居場所として、学習活動や体験活動により、社会的な自立に向け寄与できている。また、その活動は学校への出席とみなされることも児童生徒にとっても励みとなる。今後も、児童生徒、保護者に寄り添い、きめ細やかな対応により、教育支援センターの有意義な活用及び発展を期待したい。
- 2 日本語指導の必要な児童生徒は増えてきているとのことであり、言葉の壁により孤立することのないよう、現状の把握、課題の共有により、適切なフォローに努めていただきたい。

- 3 学校運営協議会については、熊取中学校に設置された。保護者や地域住民の意見を参考に学校運営に活かされたことは評価できる。各校にも設置できるよう、引き続き、地域とともにある学校づくりの推進に努められたい。
- 4 人権教育のとりくみの周知方法については、人権作品集の発行から、町ホームページにおける掲載へと変更された。人権教育の重要性に鑑み、皆さんに閲覧いただけるよう PR するとともに、人権教育を推進いただきたい。
- 5 タブレット学習端末の活用などは、今までの授業でできなかったことができるようになるなど、新たな可能性も広がる中で、まだまだ利活用できる反面、従来の学習方法にもデジタル化にない良さもあるなど、デジタル推進一辺倒ではなく、今後もデジタル化及び従来の学びの良さもうまく取り入れた学習環境を引き続き提供いただきたい。
- 6 学校給食については、物価高騰の影響もある中、児童生徒の楽しみとなり、保護者にも喜ばれる、安全でおいしく栄養価のある給食提供に今後も尽力いただきたい。
- 7 キターネホールについては、利用者目線としては使い勝手のいい規模感であり、全体的な満足感を得られやすい施設と考えられるが、施設の稼働については一層多くの方が利用してもらえるよう施設運営に努められたい。
- 8 部活動の地域展開については、一部の部活動で地域団体による体験教室が行われたが、今後の部活動に関しては活動場所や合同部活動、学校にはない種目の部活動など、様々な選択肢を踏まえ、できるところから進められたい。
- 9 図書館利用カードの登録者数を、子どもや大学生などのほか、今後も増やせるよう工夫し、取り組んでいただきたい。
- 10 生涯学習推進課や図書館からのイベント等の PR をより一層工夫し、住民への情報発信に取り組んでいただきたい。